

上海日本人学校浦東校における国際理解教育の実践

前上海日本人学校浦東校 教諭

北海道上川郡上川町立上川中学校 教諭 齊藤悦代

キーワード：国際理解教育の実践

1. はじめに

上海日本人学校浦東校は、上海市虹橋地区にあった日本人学校の児童生徒数が増大し（平成17年度は2,288名）、受け入れ困難になったため、新しく設置された上海第2の日本人学校である。前身は、日中国交正常化3年後の昭和50年2月7日に発足した「上海補習校」で、週1回の授業を行っていた。その後、全日制の補習校を経て、昭和62年「上海日本人学校」として開設された。中国政治情勢の安定や積極的な開放政策、WTO加盟による外国企業の投資環境の向上のため、在留邦人が増加し、近年、児童生徒が急激に増えてきている。平成18年度の浦東校の新設により、現在は、虹橋校（小学部のみ）と浦東校（小学部と中学部）の2校に分かれて教育活動を行っている。17年度当初に起きた反日デモのため、一時、校外学習などの制約はあったが、大きな問題になることなく現在に至っている。

上海日本人学校浦東校では、文部科学省学習指導要領に準拠した初等中等普通教育を行うとともに、中国語と英会話を全学年で実施するなど日本人学校としての特色も取り入れている。平成16年度から平成18年度まで文部科学省から国際交流ディレクターが派遣され、交流校の開拓、現地校教員との交流内容の検討、交流本の編集などを行い、現地校交流の土台作りを行った。以後、各学年ごとに、年に一度、交流の機会を設け、隔年でお互いの学校を訪問し合い、一緒に学習をしたり、スポーツを行ったりして、交流を深めている。

2. 国際理解教育の実践

(1) 少人数・習熟度別の語学学習

全学年において、ネイティブ講師による英会話と中国語の授業が週に1時間ずつ設けられている。英会話においては、小学部は1学級を2グループに分けた少人数指導、中学部は1学級を5グループに分けた習熟度別指導を行っている。中国語においては、習熟度の差が大きいため、全学年、2学級を習熟度別に6グループ程度に分けて、個に応じた語学指導を行っている。語学主任を中心として、カリキュラムの見直しや教材開発を行い、日本人学校オリジナルの中国語教科書も作成し、指導内容の工夫を図っている。中学部2・3年生は選択教科として、英会話か中国語会話の何れかを選択し、学習内容を更に充実・発展させている。また、日本人教員が各教室を巡回して、学習の様子を把握したり、小学部においては、TTとしてネイティブ講師を支援している。

(2) 中日スピーチ大会の実施

年に一度、上海現地校の中学生（10名程度）を招待し、「友好親善に関すること」、「同世代に訴えたいこと」、「未来への展望に関すること」をテーマとして、日本人学校の生徒は中国語で、上海現地校の中学生は日本語でスピーチを行う「中日スピーチ大会」を実施している。互いの考えを知り、広く国際理解を深める機会とするとともに、日本語や中国語でのスピーチを通じた相互の語学力向上の機会として、日頃の語学学習の成果を発揮する場となっている。

「中日スピーチ大会」を終えて 生徒感想

☆2年・3年と短い期間で中国語・日本語などの外国語を習得し、このように、みんなの前で発表できるのは、とてもすごいことだと思う。自分は、現地校に進むので、2・3年後には、あんなふう外国語で立派なスピーチができるようになりたいと思う。

☆いろいろな現地校の生徒が「日本が好き!」と言ってくれたことを、とても嬉しく聞いていました。過去のことはやっぱり消せないけれど、今、私たちにできることは、過去を振り返り、反省し、平和維持を努めることで日中関係を更に良くすることだと、改めて実感させられました。また、歌の合唱を通して、私たち日本人も「中国語が好き」という気持ちが伝わればいいと思いました。今回の中日スピーチ大会からたくさん学べたこと、得たことがありました。もう卒業してしまって、できないのが残念です。いい経験になりました。

(3) 中国の芸術・文化鑑賞 (PTA主催のチャレンジタイム)

子どもたちに、中国の音楽や文化、芸術を鑑賞・体験させることを目的として、PTAが主催するチャレンジタイムを各学年ごとに年に1回開催している。

【主な内容】

○中国民族楽器・舞踊 ○京劇 (鑑賞と体験) ○上海雑伎団 (鑑賞と体験)

(4) 現地校との交流

現地校との交流は、学年別交流活動基本ガイドラインに基づき、各学年毎に交流内容を計画・実施している。中学部においては、グループ内での討論会や合同授業を実施するなど、発達段階に応じて、交流内容が充実・深化するよう工夫を図っている。交流時には、グループごとに語学リーダーを設け、中国語、英語を中心としてコミュニケーションを行っている。また、上海市の日本語を学習している外国語学校の生徒は、日本語を用いて交流することもある。現地校の教員は、概ね、日本人学校との交流に積極的であり、学校の教育課程に位置づけて、交流を継続していきたいと考えてくれる学校もあった。



中学3年生 「合同授業 (英語)」

日本人学校の生徒が現地校を訪問し、中国の生徒と一緒に英語・音楽・美術・体育から選択し授業を受けた。体験授業後は文化交流も行った。



中学2年生 「浦東地区MAP作り」

両校の生徒が、互いに自分の住んでいる近辺を紹介し合い、これからの浦東がどのように発展していくか考えて、共同でMAP作りを行った。

平成20年度学年別交流活動基本ガイドライン

学年	国際教育のねらい	具体的交流活動例	H19交流相手校
小低	・遊びや歌を通して上海、中国を身近に感じることができる。	自己紹介 簡単な挨拶や握手など 全体遊戯 歌遊び、鬼遊び、じゃんけん遊びなど、体を使って楽しめるもの グループ遊び 伝統的な遊び	現地小 (1年：浦明師範附属小学東校) (2年：上海市実験学校東校)
小中	・人々の身近な生活を通して中国と日本の文化の類似点や相違点を知ることができる。	自己紹介 名刺等を使って簡単な言葉の交換 合唱 日中の歌や英語の歌 出し物 日常の学習の中から 全体交流 スポーツ交流等 グループ交流 伝統的な遊びや文化 上海タイムマ 小3：自分、小4：人	現地小 (3年：南馬頭小学) (4年：浦東新区海桐小学)
小高	・国を越えた文化や生活を理解すると同時に、日本と中国および諸外国との様々ながらりからよりよい国際関係を考えることができる。	五年 自己紹介 名刺交換、挨拶 全体交流 スポーツ交流等 合唱 日中の歌や英語の歌 出し物 日本文化の紹介 グループ交流 伝統的な文化紹介 上海タイムマ 自然	現地小 (第六師範第二附属小学) (実験学校東校児童節文芸コンクール)
		六年 自己紹介 名刺交換、日常会話 全体交流 スポーツ交流等 合唱 日中の歌や英語の歌 出し物 日本文化の紹介 グループ交流 文化紹介 上海タイムマ 文化	現地小 (建平世紀中学)
中学	・中国の文化、地理、歴史の学習を通して中国についての理解を深めると同時に、日本と中国および諸外国とのよりよい国際関係について考えを深める。	中一 自己紹介 名刺交換、中国語と英語を駆使して内容のある会話を する。 出し物 日本文化・学校の紹介 合唱 日中の歌や英語の歌 グループ交流 討論会、芸術、スポーツ等 交換授業 互いの授業の経験 上海タイムマ 学ぼう中国	現地中 (甘泉外国語中学)
		中二 自己紹介 名刺交換、中国語と英語を駆使して内容のある会話を する。 出し物 日本文化・学校の紹介 合唱 日中の歌や英語の歌 グループ交流 討論会、芸術、スポーツ等 交換授業 互いの授業の経験 上海タイムマ 世界に生きる力	現地中 (上海浦東中学)
		中三 自己紹介 名刺交換、中国語と英語を駆使して内容のある会話を する。 出し物 日本文化・学校の紹介 合唱 日中の歌や英語の歌 グループ交流 討論会、芸術、スポーツ等 交換授業 互いの授業の経験 上海タイムマ 中国から学ぶ国際人としての 生き方	現地中 (菊園実験中学)

(5) 部活動交流・インターナショナルスクールとの交流

国際都市上海には多くの外国人学校があり、児童生徒の国際的な感覚を養うために、現地校との交流の他に、上海の国際学校との交流も行っている。中学部では、英語圏のインターとの交流を行ったり親善試合を行ったりする部もある。

(6) 宿泊学習・修学旅行（小6～中3）

在外教育施設としての特性を生かし、中国各地への宿泊学習・修学旅行を実施し、児童生徒の見聞を広げる機会としている。人々の生活の様子を知ったり、実際に自分の目で見て、体験することによって歴史や文化について知ったりすることができる貴重な学習の場となっている。

中学1年生 紹興・杭州

【宿泊学習内容】

- 河姆渡遺跡見学（7千年前の稲作の遺構）
- 杭州見学（西湖見学・茶摘み）
- 体験学習（紹興酒の器への絵付け・蘭亭での書道）

中学2年生 南京・蘇州

【事前平和学習】

- 南京虐殺記念館見学に向け、それに至る背景についての学習、南京大虐殺についての映画鑑賞、日本と中国の間で考えなければならないことについての話し合い

【宿泊学習内容】

- 南京市内見学（中山陵～孫文が眠る場所～見学、中華門、夫子廟〈孔子廟〉見学）
- 平和学習
 - ・平和式典（平和の集い）
- 南京大虐殺記念館副館長や戦争被災者の方のお話・平和に向けてのクラスアピール・千羽鶴の奉納
- 蘇州市内見学
 - ・寒山寺見学、古運河遊覧、虎丘（中国の斜塔）見学、拙政園見学

中学3年生 西安・敦煌

【修学旅行内容】

- 西安市内見学（兵馬俑見学・大雁塔見学）
- 体験学習
- 敦煌市内見学（鳴沙山見学・ラクダ体験・夜光杯工場の見学）

4. おわりに

浦東校開校の年に赴任したため、虹橋校の歴史を引き継ぎながらも、浦東校としての土台作りに携わることできた3年間であった。中国語担当として、中国語講師と協力して、浦東校独自の中国語教科書を作成したことや授業を改善していくための打合せを毎週のように行ったことは、外国語指導の在り方について考えることのできる大変良い経験となった。今後の英語指導にも生かしていきたいと考える。また、国際交流部として、全学年の交流校を訪問し、現地校の教員と交流内容について話し合うことができたことは、中国の教員の教育に対する考え方を知る良い機会となった。今後も、上海日本人学校浦東校には、異なる国の文化を大切に、共生していく子どもの育成を目指し、現地校との交流をはじめとした国際理解教育を更に充実・発展させていって欲しいと考える。